第五講『中務内侍日記』

次の文章は、春宮（とうぐう）（皇太子。のちの伏見天皇）に仕えていた作者が、春宮と左中将（京極為兼）との間にあった出来事を回想したものである。よく読んで、後の問に答えなさい。

世に経れば、何となく忘れぬふしぶしも多く、袖もぬれぬべきことわりも知らるるこそ、①かはゆくおぼゆれど、ことに弘安六年四月十九日、例の、*嵯峨殿の御幸（ごかう）なりて還御なる。御夜の後、春宮の御方、*土御門の少将ばかり御供にて、院の御方ざまに忍びて御覧ぜらるる。南殿の花橘（たちばな）盛りなる頃なれば、香を懐かしむ郭公（ほととぎす）もやと待たせおはしますに、②心づくしの一声もあかず恨めし。

その頃、左中将、何事にかありけん、こもりて久しく参らざりけるに、有明の空に鳴きぬる一声を、寝覚にや Ａ聞くらんなど、かたじけなくも Ｂ思し召し出づ（い）るは、夢の中にも通ふらんをと Ｃ思ひやらるるに、

　思ひやるねざめやいかに時鳥（ほととぎす）鳴きて過ぎぬる有明のそら

と御気色あれば、*内侍殿、たどたどしき程の有明の光に書きて、花橘に付けられたり。

*さるべき御使ひもなくて、明けぬ［ａ］べしば、土御門の少将、人も具せずただ一人、馬にて行きぬ。手づから馬の

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

口をひきて門をたたくに、③とみにも開けず。空は明け方になるもあさましくをかし。門を開けぬるに、Ⅰ思ひよらずあきれたりけんもことわりなり。さらぬ情けだに、折から物はうれしきに、④かしこき御情けも深く、*色をもと思し召し出づるも、御使ひの嬉しさはげにいかなりけん。*同じ類ひならん身は、Ⅱげにいかでかうらやましからざらん。ありがたき面目、生ける身の思ひ出でとぞ、よそに思ひ知られて侍り[b　き]。ほのぼのと明くるほどにぞ、帰り参りたる。

宮の中鳴きて過ぎける時鳥待つ宿からは今もつれなし

（『中務内侍日記』による）

＊嵯峨殿の御幸なりて還御なる＝院（御深草院。春宮の父）が離宮の嵯峨殿への御幸からお帰りになる。
＊土御門の少将＝源具顕。
＊内侍殿＝女房の名。
＊さるべき御使ひもなくて＝しかるべき使いの者もいなくて。
＊色をも香をも＝『古今和歌集』春上の紀友則の歌「君ならで誰にか見せむ梅の花色をも香をも知る人ぞ知る」を踏まえた表現。
＊同じ類ひならん身は＝同じく春宮にお仕えしている同僚としては。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　傍線①「かはゆく」、③「とみに」の語の意味として、最も適切なものを次の中からそれぞれ一つずつ選べ。

①「かはゆく」

ア　愛らしく　　イ　趣き深く　　ウ　恥ずかしく

エ　懐かしく　　オ　いじらしく

③「とみに」

ア　すぐに　　イ　やたらに　　ウ　やはり

エ　用心して　　オ　滅多に

問二　傍線②「心づくしの一声もあかず恨めし」、④「かしこき御情けも深く」の説明として、最も適切なものを次の中からそれぞれ一つずつ選べ。

②「心づくしの一声もあかず恨めし」

ア　春宮が丁寧に言葉を選んで一声かけたのに、院が部屋を開けてくれなかったのが恨めしいということ。

イ　ほととぎすが素晴らしい声で一声鳴いたのに、院が顔を出してくれなかったのが恨めしいということ。

ウ　さんざん待ったのに、ほととぎすが一声しか鳴かなかったので、物足りずに恨めしいということ。

エ　ほととぎすが鳴くのを心を砕いて期待していたのに、一声も鳴かなかったのが不満で恨めしいということ。

オ　土御門の少将が気をもんで一声かけたのに、春宮の機嫌が直らなかったのが恨めしいということ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

④「かしこき御情けも深く」

ア　左中将の出仕がない理由を深く見抜いた春宮の判断が、とても賢明なものであったということ。

イ　宿にこもってしまっている左中将に対しての春宮のお気遣いが、畏れ多いほどに深いということ。

ウ　なぜ土御門の少将がやって来たのかを、即座に理解した左中将の洞察力が深いということ。

エ　明け方なのに、土御門の少将を招き入れた院の懐の深さが、もったいないほどであるということ。

オ　ほとどぎすを愛する左中将への院の親愛の念が、驚くほどに深いものであるということ。

問三　波線A「聞く」、B「思し召し出づる」、C「思ひやら」について、それぞれ誰の行為か、次のア〜カの中から選べ。

ア　院　　イ　春宮の御方　　ウ　土御門の少将

エ　左中将　　オ　内侍殿　　カ　作者

A＝　　B＝　　C＝

問四　傍線Ⅰ「思ひよらずあきれたりけんもことわりなり」、傍線Ⅱ「げにいかでかうらやましからざらん」をそれぞれ現代語訳しなさい。

Ⅰ＝

Ⅱ＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問五 [a] [b] には、助動詞「べし」、助動詞「き」の終止形をそれぞれ仮に記している。どのような形で入るのがふさわしいか、正しい活用形に改めたものを答えなさい。

a＝

b＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第五講　復習問題

① 「とみのこととて」の解釈として、最も適切なものを次の中から選べ。

ア　先に決まっていた予定があるので　　イ　都見物に出かけるので

ウ　遺産相続に関する相談があるので　　エ　火急の用事があるので

オ　跡目選びの問題があるので

② 「ことわりに」の意味として、最も適切なものを次の中から選べ。

ア　理屈っぽいことだと　　イ　すばらしいことだと

ウ　言い訳がましいことだと　　エ　もっともなことだと

オ　謝罪すべきことだと

③ 「飽かざりし名残をあそばして」の解釈として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　見飽きることのない面影を胸に思い浮かべなさって

イ　満ち足りないままに別れた思いをお書きになって

ウ　聞き飽きることのない琴の余韻に浸っておいでになって

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

④「ありがたく」の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　めったにないことと
イ　風流なことと
ウ　ありがちなことと
エ　もったいないことと
オ　感謝すべきことと

⑤「ことわりなり」の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　あり得ることだ
イ　当然だ
ウ　すばらしいことだ
エ　礼儀だ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第五講　模範解答

問一　①ウ　③ア
問二　②ウ　④イ
問三　Aエ　Bイ　Cカ
問四　Ⅰ　意外なことにびっくりしたとかいうのももっともである
Ⅱ　本当にどうしてうらやましくないことがあろうか、いや、うらやましい限りである
問五　a べけれ　b し

〔現代語訳〕

この世に生きていると、なんとなく忘れることのできないいろいろなことも多く、（涙で）袖も濡れてしまいそうな道理も自然とわかってくるが、（それでも思い出に執着していることが）恥ずかしく思われるけれども、とりわけ弘安六年四月十九日、いつものように、（御深草院が）離宮の嵯峨殿へお出かけなさって（そこから）お帰りになることがあった。（院が）寝なさった後、春宮さまが、土御門の少将〔＝源具顕〕だけをお供として、院の御所のほうへこっそりいらっしゃってご覧になる。南殿の橘の花が花盛りの時期であるので、（その橘の）香を慕わしく思う郭公もいるだろうかと（春宮が）お待ちになっていらっしゃるのに、さんざん待たせておいて一声しか鳴かないというのが物足りずに恨めしい。

その頃、左中将〔＝京極為兼〕は、何ごとであったのであろうか、家に閉じこもって長く参上しなかったが、有明の空に鳴いた一声を、（左中将が）寝覚めに聞いているだろうかなど、恐れ多くも（春宮が）思い出しなさるのは、（左中将の）夢の中にもお心が通っているのだろうよ、と自然に思いをめぐらしたところ、

思ひやる……＝思いを馳せています。あなたの寝覚めの気分は、いかがですか。時鳥が鳴いて過ぎていった有明の空を見て。

と（春宮の）御意向があるので、内侍殿が、ぼんやりしている有明の月の光（を頼り）に書いて、橘の花にお付けになった。

しかるべきお使いの者もいなくて、（夜が）明けてしまいそうなので、土御門の少将が、人も連れることなくたった一人、馬

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

で出かけた。自分で馬の轡を引いて門を叩くが、すぐにも開けない。空は明け方になるのも（明るくなり見咎められないかと）あきれながらも趣がある。門を開けた時に、（左中将が）意外なことにびっくりしたとかいうのももっともである。（春宮のような）貴人からではない気遣いでさえ、ちょうどそういう時には嬉しいものなのに、（まして、春宮の）畏れ多いお気遣いも深くて、花の色についても花の香についても（わかる人だけがわかるのだ）と思い出して下さったのも、お使いを迎える嬉しさは本当にどれほど嬉しかっただろうか。同じく春宮にお仕えしている同僚としては、本当にどうしてうらやましくないことがあろうか、いや、うらやましい限りである。めったにない名誉で、生きている身の思い出として、他の人々にも知られておりました。うっすら（夜が）明ける頃に、（土御門の少将が、為兼の返歌を持って）帰参しました。

宮の中……＝春宮御所の中を鳴いて過ぎていったという時鳥は、待っている私の家が賤しいからでしょうか、（私の方では）今もそ知らぬふりをしています。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〔**重要単語**〕

○ことわり【理】…①**道理**。②理由。
○かはゆし…①**恥ずかしい**。②みていられない。
○あく【飽く】…①**満足する**。②いやになる。
○けしき【気色】…①**様子**。②情趣。③**態度**。④**意向**。⑤**機嫌**。
○とみなり【頓なり】…**急なこと**。にわか。
○あさまし…①**驚きあきれる**。②嘆かわしい。③話にならない。④程度がはなはだしい。
○ことわりなり【理なり】…**当然である**。**もっともだ**。
○かしこし【畏し・恐し】…①恐ろしい。②**恐れ多い**。
　【賢し】①利口である。②非常に。
○ありがたし【有り難し】…①**めったにない**。②すぐれている。③**生きながらえにくい**。④尊い。
○つれなし…①**冷淡だ**。②さりげない。③平気だ。④もとのままだ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第五講　解答解説

〔解説〕

①「とみ」は重要単語で、「急なこと」の意味。よって、正解はエ。

②「ことわりなり」は重要単語で、「当然だ・もっともだ」の意味。よって、正解はエ。

③「飽く」は重要単語で、「満足する」の意味。「飽かず」だと「不満だ・物足りない」の意味。よって、正解はイ。

④「ありがたし」は重要単語で、「めったにない」の意味。よって、正解はア。

⑤②同様で、正解はイ。

〔解答〕

①エ　②エ　③イ　④ア　⑤イ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。